



Vol. 388

社会医療法人近森会

11

話題の治療 しびれ外来 吉田剛	2
近森病院附属看護学校学園祭 正木芳美	4
社会福祉法人ファミーユ高知 管理者交代	6
ノーリフティングケア勉強会	10
新シリーズ 患者さんを訪ねて 整形外科篇	14

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目1-16 tel. 088-822-5231  
発行●2018年10月25日 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

目次



## 「ひろっぱ講座」誕生しました！

診療支援部 部長  
兼 企画課長 山崎 啓嗣



院内誌「ひろっぱ」は、先代近森正博理事長が逝去されて1年8カ月後の昭和61年7月に創刊されました。病院の進むべき方向を常に発信し続けるとともに、みんなが集まってワイワイと遊んだ“ひろっぱ”のような、情報交換の場をとの思いから名づけられています。

そんな院内誌創刊から32年、「ひろっぱ」の名を冠した出前講座が誕生しました。この講座は県民、市民向けの無料講座です。希望されるテーマにあわせて講師が指定の場所へ伺います。集会場であったり、公民館であったり、地域のひろっぱ（イメージ）で開催する講座となっています。講師はすべて近森病院の専門職で約40名のスタッフが56のテーマでお話させていただきます。

今回、講座開設にあたって各部署へテーマ設定をお願いしたところ、なんと2週間で60近い数が挙がってきました。どの講座も興味深いテーマで、ためになる内容満載です。A4サイズ1枚で作るつもりだった講座案内は、内容に負けじと、顔写真付き冊子へと変更。（右上図）充実した案内が完成しました。早速、講師に冊子をお渡したところ、自分以外のテーマを見て「この講座面白そう、聞いてみたい」といった声も聞かれました。

互いに好評価できるひろっぱ講座、本当にお勧めです。是非、ページをめぐって、多くの受講を申し込んでもらえればと思います。インターネット（活字）では得られない温度感のあるお話が聞けるとと思います。

また、地域の医療機関、介護施設の方々にも勉強会、研修での講演などに

お声がけいただければと思います。

講師の外出中、各部署の皆さんには、業務の補完をお願いいたします。

近森といえばひろっぱ！本講座が長く高知の皆さんのお役に立てることを願っています。

やまさき ひろつぐ



※マークのついた講座は高知家「健康パスポート」のヘルシーポイント提供講座です。





## しびれ外来（末梢神経筋疾患専門外来）

近森病院リウマチ・膠原病内科（脳神経内科兼任）

科長 吉田 剛

（神経内科専門医、末梢神経伝導・筋電図専門医）

2018年10月より近森病院にしびれ外来（末梢神経筋疾患専門外来）がスタートしました。本稿では、この外来が対象とする疾患や筋電図をはじめとする診断ツールについて解説します。

### 1. どのような疾患が対象か？

"しびれ"は日常診療で極めて頻度の高い訴えです。しびれ感とは感覚症

状を示す用語ですが、一般の方はしびれという用語を、運動麻痺を指して用いることもあります。原因としては生活習慣病や飲酒、手根管症候群などの整形外科疾患、ギラン・バレー症候群などの炎症性疾患、筋炎や重症筋無力症などの筋疾患・神経筋接合部疾患など多彩です。

### 2. 外来開設の目的

当外来では、既往症などで説明のつかない麻痺・筋力低下やしびれの原因を、専門医による診察や検査によって診断することを目的とします。

### 3. 筋電図・神経伝導検査による「電気診断」

末梢神経・筋疾患の正確な診断においては筋電図・神経伝導検査をはじめとする神経生理学的検査による「電気診断」が不可欠です。必要に応じて、神経生検、筋生検や末梢神経画像検査を行い、同領域において高い水準の医療を提供します。

### 3. 外来予定

院内外紹介の受付を開始しました。院外紹介については地域医療連携センターまでご連絡ください。尚、外来枠の関係から患者さんの継続的な診療は難しい場合がございます。ご了承ください。毎週火、金 11:00-12:00（患者さんからの直接予約は承っておりません。かかりつけ医へご相談ください）

### 4. 診察担当医師

吉田剛（神経内科専門医、末梢神経伝導・筋電図専門医）  
よしだ たけし



### 2018年度 看護師長・主任交流会



## 11月の歳時記

### あざみ

近森病院

臨床栄養部主任 和田 早織

日本全土で自生しており日本特産の種類も100以上あります。山野に見られるのは、ノアザミやモリアザミが多く、地方によっては、根を煮たり、漬物、キンピラにして食べられ「やまごぼう」とよばれています。棘が特徴的で、花言葉は「独立」「厳格」などがあります。凜とした佇まいに、背筋が伸びる思いがして私の好きな花です。

わだ さおり



## 口福社会を目指して

近森病院 ICU

摂食・嚥下障害看護認定看護師 矢澤 展子



平成 23 年の人口動態調査における死亡率は、悪性新生物、心疾患に次ぎ、肺炎が第 3 位となりました。超高齢社会となった現在、高齢者の誤嚥性肺炎罹患者数が増加するなど、摂食嚥下障害者は確実に増えることが予測されています。当院では、脳卒中や肺炎などの入院患者が多く、嚥下障害への支援が大切だと感じています。『口から食べる』ということは、栄養を取り込むというだけでなく、おいしく食べることを通して楽しみや喜び、生きる意欲を得るなど重要な意味を持って

ます。

私は 2016 年に摂食・嚥下障害看護認定看護師となり、週に 1 回活動日をいただき、摂食できる口腔を保つためのケアや、摂食機能療法の算定・嚥下ラウンドに関わっています。

嚥下リハビリ＝言語聴覚士、口腔ケア＝歯科衛生士、栄養管理＝管理栄養士など、当院の強みはコメディカルが充実していることですが、看護師は 24 時間患者と接し全身状態を看ることができます。その中で窒息や誤嚥性肺炎を起こすリスクを早期に発見し、

患者さんの安全に配慮することが自分たち看護師の重要な役割だと捉え、日々の活動を行なっています。その活動の一つに、口のリハビリテーション認定講座があります。患者さんの「口から食べたい」という思いを安全に援助することが出来る仲間作りを拡げています。

一人でも多くの患者さんが食事を楽しめるよう他職種と連携して、認定看護師としての役割が發揮できるよう日々努力していきます。

やざわ のぶこ

## リレー エッセイ

### 今だから 言えること

近森病院総合心療センター

5 階病棟 看護補助者 中越 裕美



近森病院に就職して 23 年、いつまで私は働けるのだろう。いやいや、定年まで、と思いながら今日に至っています。

そんな私ですが、ちょうど 10 年前、胃部の不快感を感じるようになり受診をしたのですが診断の結果は胃癌でした。頭の中が真っ白になったことを思い出します。

実は、私の姉が同じ胃癌で 40 歳の若さで亡くなっていたのです。その時、癌に負けることなく姉の分まで長生きしよう、絶対、諦めない気持ちになったのを今でも覚えています。

そして胃全摘出手術を受け今年で丸 10 年、定期的に検診も受け、幸い転移することもなく今も元気で仕事ができています。その時には家族の支えはもちろん主治医であった坪井先生をはじめ、「チーム医療」でお世話になったスタッフの皆さん、一人

一人に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

今、私は主人と二人でともに頑張り三人の息子たちを無事、自立させることができました。この 4 月には三男も警察官の兄に憧れ無事に警視庁へ入ることができ、親として子供たちを誇りに思っています。

そして長男・次男の優しいお嫁さん、可愛い孫たちの顔を見て、この手で抱っこできることが一番の幸せと感ぜられるようになりました。

健康はお金では買えないというように、皆さんも少しでも自分の身体に異変を感じたら「早期発見、早期治療」。今は癌も治る病気です。早めの受診を心掛けて下さい。何といたっても健康が一番の宝です。



こうして元気に仕事もできている今、自分の身体に<sup>ねぎら</sup>労いを持ち、皆さんの楽しみを見つけ後半の人生をエンジョイしていきたいと思っています。

なかごし ひろみ



日高徳州会病院  
院長 井齋偉矢先生

今年は腎臓病に対する漢方薬治療をテーマにサイエンス漢方処方<sup>サイエンス漢方</sup>の立場から井齋先生にご講演をいただいた。40名近い参加者で講演終了後の議論も盛

## システムバイオロジーと漢方薬

近森病院総合診療科  
部長 浅羽 宏一



んに行われ、柴苓湯<sup>さいれいとう</sup>など臨床試験で有効性が証明されている漢方薬について勉強した。

各論も良かったが、私の心を掴んだのは総論のサイエンス漢方の部分だ。超多成分である漢方薬は従来の薬理学の手法では薬能の解明が困難であるため、現在オックスフォード大学でシステムバイオロジーの考え方で、スー

パーコンピューターを使い数学者たちが芍薬甘草湯の解析を進めているという事実である。

日本で古臭いと思われる漢方薬がイギリスで最新の科学になっている。しかも数学者が医学研究をリードしている。驚きである。

あさば こういち

### 第3回 近森病院附属看護学校 学園祭

#### つなげよう地域の輪

近森病院附属看護学校  
学生自治会長 正木 芳美



9月21日(金)、22日(土)に近森病院附属看護学校の3回目の学園祭を開催しました。開校4年が経ち、今回の学園祭は地域の人々との輪を繋げたいという思いから、テーマを「繋げよう地域の輪」としました。

1日目、午前中は尾原副校長による“いのち”をテーマにした講演・映画上映会を開催しました。午後からは初の試みである前日祭を開催しました。1、2年生の模擬店を前日から稼働さ

せ、食べて楽しみ、アコースティックライブやダンス、よさこい演舞によるステージパフォーマンスなどが観て参加して楽しみました。

2日目は、模擬店・健康チェック・バザー・ステージイベント・山崎校長によるミニ講座・健康相談室などを行いました。

今回の学園祭は昨年度と比べ3週間ほど早い開催となり、また1年生は誓いのセレモニーの準備、3年生は領域

別実習があり、準備期間が少なく不安がありました。しかし、当日は天気にも恵まれ、多くの方が来場していただき、とても盛り上がった学園祭となりました。

学園祭開催にあたり、近森会グループ職員の皆様にはバザーの品物の支援をいただき大変感謝しております。またお忙しい中、ご来場いただきありがとうございました。

まさき よしみ

## パーキンソン病の基礎から iPS 細胞を使った最新治療まで



京都大学大学院医学研究科  
脳病態生理学講座臨床神経学  
教授 高橋良輔先生

本邦患者数 150 万人の神経難病の代表的疾患であるパーキンソン病について、この領域のオピニオンリーダー

近森病院脳神経内科

主任部長 山崎 正博



も、この疾患や新しい治療法に対する関心の深さを示していると思われた。

やまさき まさひろ

である高橋良輔教授から病因、臨床症状、病理などの基礎から内科薬物治療の変遷を掘り下げて、かつ簡明にご説明いただいた。

また当院では行っていない外科治療である深部脳刺激治療 (DBS) や Duodopa のほか、究極の根治療法と言われ、やっと認可された iPS 細胞を使った最新の治療についても詳しくご講演いただいた。

多数の研修医のほか、各職種の方々や患者さん 2 名が聴講されていたこと

### ハッスル研修医

#### 切磋琢磨



初期研修医 瀨川 朗

出身は神奈川県で、横浜市立大学を経て、今年の春から高知県に来て近森病院にて研修をさせていただいております。

この半年間は呼吸器内科、泌尿器科、消化器内科、麻酔科にて研修をさせていただきましたが、どの診療科でも丁寧にご指導いただき、多職種の考え方や意見を聞かせていただく機会も多く、日々様々なことを学ばせていただいております。

2 年間という限られた期間の中で多くの経験を積みたくと考えておりましたが、まだまだわからないことも多くすでに半年過ぎていているという事実にはただ時間が足りないと思うばかりです。今後は限られた期間で充実した研修を行えるように研修医同士で切磋琢磨して日々充実した研修期間を過ごしたいと考えております。

まだ分からないことも多く、皆様にはご迷惑をおかけすることもあると思いますが、ご指導いただければ幸いです。今後とも何卒よろしくお願い致します。

せがわ ほがら

### 私の趣味

#### 多肉植物

近森リハビリテーション病院

3 階病棟東看護師 岡林 篤子



私の趣味は何とんでも「多肉植物」です。2 年ほど前から多肉植物の魅力に取りつかれ、最初は日曜市や多肉ハウスなどを訪れて収集していましたが今では娘の住む松山まで遠征するほどです。

紅葉したり花が咲いたり、また葉っぱから芽が出るという健気さと力強さ。魅力を語りだすとときりがありま



せん。でもこれは多肉植物の魅力に取りつかれた人になにかわからないらしく、ニヤニヤしながら手入れをする私を見て子供たちはあきれています。「子育てと一緒にやね」といわれたりもします。

ちょうど私が多肉植物にはまってしまった時期は、末娘が高校を卒業しバタバタと過ぎていた時間がゆっくりと流れるようになってからでした。下手ですがリメイク缶なども暇な時に作っています。育て方はもちろん自己流！この夏の酷暑でジュクジュクと痛んでしまったものもありますが近頃涼しくなってきたので多肉熱再燃です！多肉植物に取りつかれた人いませんか～

おかばやし あつこ

## 社会福祉法人ファミーユ高知 管理者交代のお知らせ

### 我が事・丸ごと

高知  
ハビリテーリングセンター  
センター長 西岡 由江



社会福祉法人ファミーユ高知の管理者が大きく交代いたしました。ファミーユ高知にとって管理者が変わることは高いリスクを背負うことでもあります。

しかし、この変化を組織改革のチャンスと前向きに捉え、両センター共に取り組んでいく覚悟です。私の管理者としての覚悟は「我が事・丸ごと」という地域共生社会実現のコンセプトを大切に、まずは組織内の「縦割り」と「他人事」という関係を超越する仕組みをつくる事だと考えています。スタッフの多様な主体が『我が事』として参画でき、人と人、人と資源が世代や部署を超えて『丸ごと』につながることで、柔軟で自律・自働な職場を目指したいと思っています。

スタッフの一人ひとりを大事にして、一人ひとりが元気になることで、ハビリが元気になり、ハビリが元気になることで地域社会が元気になる、そんな活気のある組織へ変わっていきたいと思っています。

にしおか よしえ

### 皆にとって良い一日になるよう

しごと・生活  
サポートセンターウエーブ  
センター長 沼 慶子



この度、センター長を拝命しました沼慶子です。私は平成20年1月からウェーブに勤務し来年の1月で12年になります。

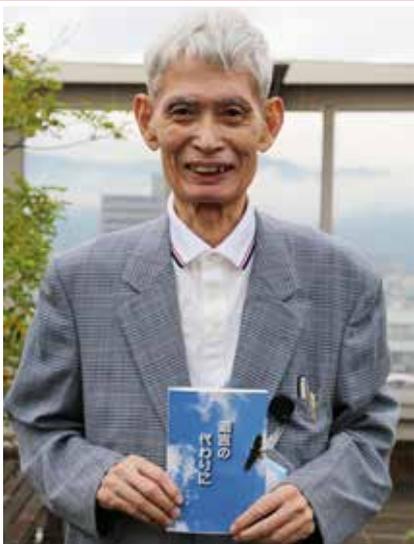
これまでは就労の現場で働く支援員であったり、個人個人の目標設定や課題に取り組むサービス管理責任者であったり、現場の支援員として勤務してきました。この間、幾度となく挫折しかけたこともありましたが、職員や利用者、梶原元施設長の温かい言葉であったり、西岡前センター長の励ましであったり、自分が辛い時に何気なく気にかけてくださった心遣いに救われたからこそ続けられた12年であったようにも思えます。だからこそ今は、12年間勤めさせていただいたウェーブとその利用者、一緒に働いてきた職員に私なりに恩返しができると思っています。

一日一日が皆にとって良い一日になるように、またその輪が法人全体へ、地域へ高知県へ広がるように人事を尽くしていければと思っています。

ぬま けいこ

### お知らせ

田村雅一先生が本を出版されました。  
『遺言の代わりに』



近森病院総合心療センターの田村雅一先生が『遺言の代わりに』と題して、語る代わりに書き留めた「あれやこれや」の随筆集を出版。思いもかけない視点にドキリ。考えさせられる毒言。なのに、なんだか痛快な読後感。ぜひ、読んでみてください。お求めは総合心療センターの清水秘書（内線 6839）、または金高堂本店へお願いいたします。

### 変化に対応できる組織づくりを

しごと・生活  
サポートセンターウエーブ  
副センター長 中越 太一



この度、副センター長を拝命しました。正直、移転して約4カ月と産声をあげたばかりの中、大黒柱の異動は大きな損失と言わざるを得ません。

しかし、今年の5月に移転し、充実した支援環境を準備していただき事業を開始する中で「良質な環境がすべてではない」という新たな気づきを得ました。

状況にもよりますが、「人、物、金、環境」が充足してないからこそ、人間力やアイデアが引き出され、新たな発想や行動が展開されることも大いにあると、今まさに私自身はそのように考えています。

平成も終わりを迎え、環境や社会情勢などもこれまでと大きく異なる昨今。日々の日常に感謝しつつ、変化に対応できる組織づくりを法人一体となって取り組みたいと思います。

なかごし たいち

## 患者の気持ちと状態が本当に良くなる、 患者と介助者にやさしいケア



▲講師の一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク  
代表理事 下元佳子先生



**BAD!**  
▲抱え込んで上に持ち上げては介助者の腰に負担がかかる



**GOOD!**  
▲身体の片側に重心を寄せ、肩と腰を右左に回転させて負担減



### 負担がかからない方法を

近森病院 SCU 病棟  
看護師 津野 阿巳

SCU 病棟は意識レベルの低下で寝たきり患者が多く体位変換時は一人では難しく腰を痛めることも多かった。実際に患者の立場と介助者の立場でボードを使用してみて、腰への負担が少なく一人でも楽にできると感じた。

いままでの体位変換では、患者を上げる際引きずってしまうこともあり、ボードの使用で摩擦による皮膚トラブルも少なくなると思われた。双方に負担がかからない方法を、今回の研修で学ぶことができた。

つの あみ

### 急性期から根付かせれば

近森病院 SCU 病棟  
看護師 梅原 典佳

勉強会に参加して、一番はすぐ現場で取り入れていきたいと思ったことだった。今の介助方法では患者、介助者にもデメリットがいかにか大きいか再認識できた。ボードを使った体験は全く負担なく患者、介助者も楽に移動できる事を体感できた。

ノーリフトを急性期から根付かせればさまざまな合併症予防もできると学んだ。ノーリフトの認識が薄い現状を変えるため、学びを深め活用し浸透させていきたい。

うめはら のりか

### ベッドサイドで実践し

近森病院 SCU 病棟  
看護師 石田 麻美

今回のノーリフトケア勉強会に参加して、急性期でこそベッドサイドでのケアをもっと考えていくべきだと、改めて感じた。ケアを取り入れれば、寝たきりやベッドを離れる際の二次障害予防もでき、そしてなによりも介助する側と、される側双方にやさしいケアだと思った。

まずは体験してみてハッと気付いたことをベッドサイドで実践し、またスタッフと一緒に体感していきたいと思った。

いしだ あさみ

# シンガポールと日本の 栄養サポートの懸け橋になれたら

近森病院臨床栄養部

部長 宮澤 靖



## 栄養技術指導へ

9月9日～16日までシンガポール共和国の医療関係者への栄養技術指導に行き参りました。シンガポールは貿易、交通及び金融の中心地の一つであり、世界第4位の金融センター、外国為替市場及び世界の港湾取扱貨物量で上位であり、皆さんもご存じの通り美観を大切にしている国です。面積は東京23区とほぼ同じ面積で人口は、560万人の小国です。平均気温は1年を通して30℃で四季がはっきりしない土地柄です。

## 私立病院はテナント制の OPEN SYSTEM

医療水準は元々高い国で、私立病院では、OPEN SYSTEMを採用しており、各専門医は病院内の施設をテナントとして借り受けてクリニックを開業して

います。そして、検査や処置、入院が必要な時は病院の施設を借りて行います。また、各クリニックのスタッフは医師が直接雇用しており、運営や診療方針も全てその医師に委ねられています。病院側は場所と設備を提供するとともに、緊急時に備え、常時緊急医と看護師を待機させています。

なお、公立病院は日本と同じシステム（CLOSED SYSTEM）で医師もそれぞれの病院に所属しており、ひとつの病院で検査から治療、入院まで全て行うことができ支払いも一度で済みます。

## 料金はすべて自由診療

自由診療の形をとっているため料金は病院または医師が自由に決めることができます。従って病院あるいは医師によって料金はそれぞれ異なります。

特に公立病院と私立病院とでは料金

に大きな開きがあり、当然私立病院の方が料金は高くなりますが、その理由の1つには設備やサービスの違いがあるということです。しかし課題も多く患者数に対して病床数が少ないことや急速に高齢化が進行しており、医療・福祉機関が対応できていない状況だそうです。

## 管理栄養士養成は全て国外へ

また、国内に管理栄養士養成大学がないため全員が海外で教育を受けてライセンスを取得後帰国して従事しているため、管理栄養士数も全く充足していないそうです。医療水準は高い国ですが、臨床栄養に関しては課題も多く今回は5日間の連続講義と現地指導を4か所で行って来ました。国民の95%がバイリンガルで英語が堪能ですので、コミュニケーションは取りやすいのですが、さすがに1日12時間の英語は疲れました。

## 栄養の架け橋に

今回は日本の医療制度やNSTの運用、経腸静脈栄養法の手技、日本の栄養関連製品の紹介や嚥下食について近森会の事例を基に紹介をしましたが参加者の多くが「日本が羨ましい」と感想をいただきました。今後も継続的な指導を依頼されており、日本とシンガポールの栄養の懸け橋になれるよう尽力をしてゆきたいと思っています。

みやざわ やすし

## 緩和ケアイベントのお知らせ

2018年11月13日 午前9時30分～午後2時



## お気軽にご参加ください。

11月13日、「癒しをあなたに」と題し、緩和ケアイベントを開催します。

緩和ケアは「がん」の方に向けて使われることが多いですが、「がん」でない方にも体や心の辛さを和らげるものとして必要なものです。「いのちのスープ」の試飲、マッサージ、頭皮ケアなど準備していますので、どうぞお気軽にお越しください。

# 乞！熱烈応援

## 自由な発想と柔軟な対応



近森病院附属看護学校  
事務長代理 中山 潤一

これまで病院事務職として行政機関への届出、病院実績の集計などの業務に携わってきました。

今後は学校事務職として行政機関への申請、収支管理、学校事務の統括など業務内容が多岐にわたりますが、当校の教育理念にある自由な発想で何事に対しても柔軟な対応を心掛けていきたいと思っております。ご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

なかやま じゅんいち

## 支え合って進む



診療支援部医事課  
主任 北川 真也

入職7年目、未熟ながらこの度辞令をいただき大変恐縮です。ファミリー高知、医事課、DMAT、地域医療連携センターと、これまで各部門で多くの先輩方や仲間に助けていただき、今日があると感じます。

ひとりではなくみんなで支え合って進む気持ちを大切に、信じられ頼られる職員であれるよう日々勉勵する所存です。ご指導をよろしくお願ひします。

きたがわ しんや

## 笑顔がみたくて一步前進



近森病院本館5階B病棟  
看護師主任 久家 由美

CCUへの入職から集中病棟を経て、昨年からは一般病棟で、たくさんの経験をさせていただいています。疾患や症状による生活の困難さと向き合うなかで、患者さんの笑顔はなによりも看護の活力です。

これからも研鑽を積み、仲間と一緒に看護の実践力向上に向け、笑顔で取り組んでいきますので、どうかよろしくお願ひします。

くげ ゆみ

## 日々精進



近森オルソリハビリテーション病院  
事務長補佐 西森 千景

異業種から医療業界へ飛び込み、半年が過ぎました。医療の世界に身を置くと、少子高齢化を目の当たりにし、5年後、10年後に地域はどうなっているのか、その時、病院はどうあるべきかを考えさせられます。

まだ分からないことばかりですが、フットワーク軽く、やれることは何でもやるという気持ちで、日々奮闘していきたいと思っております。

にしもり ちかげ

## 謙虚な姿勢を忘れず！



診療支援部企画課  
主任 大中 崇

入職して以来、医事課にて勤務し、今年の8月から企画課へ異動しました。課内の業務に関して、まだまだ不慣れな点は多いですが、職員の皆様のご協力の上で出来上がる業務と考えています。

9月に可愛い愛娘を家族に迎え、てんやわんやな父親業共々、謙虚な姿勢を忘れず、懇切丁寧に日々の業務に努めてまいります。

おおなか たかし

## 前向きに



近森病院透析室  
看護師主任 川田 愛弓

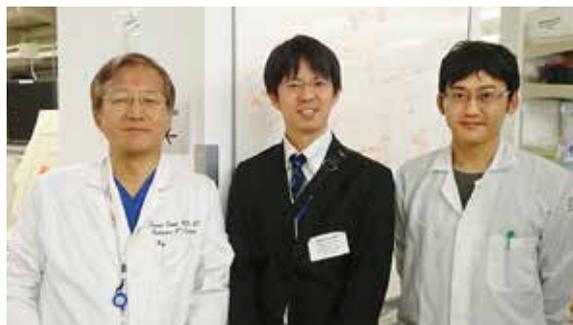
入職して十数年。今まで多くの方に支えられてきたことに感謝し、初心を忘れず、謙虚な姿勢で、前向きにがんばっていききたいと思います。

これからも努力を惜しまず、一つ一つ乗り越えて、よりよい職場作りを行ない、患者さんに満足いく看護を提供できるよう努めていききたいと思います。これからも、よろしくお願ひします。

かわだ あゆみ

# 衝撃と驚きのアメリカ医療界

近森病院心臓血管外科 田井 龍太  
(2018年4月より岡山大学病院にて研修中)



▲佐野俊二先生と俊和医師とともに、中央筆者

▼左から現在は UCSF 勤務の佐野岡山大学元教授、森田前学長、近森病院入江副院長、筆者



◀▲ UCSF のこども病院 (左) と成人を対象とした病院 (上)

## 岡山大学前学長との旅

サンフランシスコはアメリカ西海岸カリフォルニア州にあり、瀬戸大橋と姉妹橋であるゴールデンゲートブリッジや世界一脱獄困難とされる刑務所のあったアルカトラズ島などが有名な都市である。街全体が坂になっておりケーブルカーが走る様子はフォトジェニックであった。訪問した UCSF はサンフランシスコに四つのキャンパスを有しており、ノーベル賞受賞者の山中信弥先生も研究室に籍を置いている。

当院心臓血管外科ともゆかりのある、岡山大学心臓血管外科元教授佐野俊二先生が現在 UCSF で勤務されていることもあり、見学をさせていただく機会を得た。今回の見学のメンバーは、副院長兼心臓血管外科主任部長の入江博之先生と、当院顧問の森田潔先生岡山大学前学長という、重鎮の先生方に帯同する旅路で、私にとっては初のアメリカ本土ということも相まって緊張のスタートであった。

## 一日目 成人心臓外科 学生が能動的なランチタイム講義に驚く

一日目は Parnassus Heights にある病院の成人心臓外科を見学した。心臓

外科医の Dr. Tobias にガイドしてもらいながら ICU、一般病棟などを見学し、アメリカの医療情勢などを聞くこともできた。施設的にはやや古めの印象であったが、移植症例もあり、ECMO も多く稼動していた。

他に印象的であったのは Dr. Tobias が学生向けにランチタイムに行なった講義であった。その講義は学生が医師に開催を要望する学生主導のものであり、ランチタイムを利用して行なわれていた。ピザを食べながら講義を聴くというスタイルもさることながら、講義中に学生が積極的に挙手し質問を飛ばしており、日本の受動的な講義スタイルとは真逆であり驚きであった。

## 二日目 こども病院とラボ 当日朝 OP 室に直行する心臓手術に衝撃

二日目、佐野先生に Mission Bay のこども病院とラボを案内していただいた。こちらの建物は建設されたばかりで、手術室、カテ室、外来棟など幅広く案内していただいた。話を伺う中で最も衝撃的であったのは、心臓手術を含めあらゆる手術において、患者さんは当日朝に来院し、そのまま手術室へ向かうこと。そして手術までの段取りを PA(Physician Assistant) が行い、医

師は手術室で初めて患者さんに会うことも珍しくないことであった。

日本と米国で医療制度や文化の違いはあると思われるが、日本では考えられないこのようなシステムもあると知れたことは非常に有意義であった。ラボでは当院心臓血管外科に三年間勤務されていた佐野俊和先生が留学され研究者として働かれておりその様子も見学させていただいた。

## 衝撃と刺激満載の海外病院見学

初の海外病院見学であったが、医療システムの違いは実際に見てみると非常に衝撃的であり、また海外で日本人医師が働く姿は非常に刺激的であった。今回は主にハード面などを中心に見学したが、次回は実際の手術の様子や、術後管理といった具体的な点を見てみたいところである。

また、今回の旅程では佐野教授が三度の夕食会を催してくださり、非常に美味しい食事でお私たち三人を歓迎してくださったのもとてもいい旅の思い出となった。反省点は、アメリカの食事はやはりボリュームが多く、体重を 2kg も増やして帰国したことである。

たい りゅうた



## 小児心臓血管外科の新たな展開 — 直すから再生へ —

### 【講師】

岡山大学病院心臓血管外科  
教授 笠原真悟先生

笠原先生は昨年岡山大学心臓血管外科教授に就任された先生で、うまれつき心臓の病気（先天性心疾患）を患った子どもに対する心臓手術に取り組んでこられました。

今回の講演ではそのような先天性心疾患の難しさや、手術のやりがいのお話をはじめとして、どのような形の子心臓であればもっとも血液をスムーズに送り出せるのかを研究したシミュレーション医学や、心不全になった心臓に幹細胞を注射して、心臓を回復させる



【筆者】近森病院  
心臓血管外科 井上 善紀

という再生治療のお話をいただきました。

どのお話しも、子どもたちのこれからの長い将来の安心に直結する内容のお話でした。これからもご活躍に期待したいです。

## 明日の現場で役立つために

近森病院臨床工学部

技士長 深田 和生



2018年10月5日（金）13:30～18:00、管理棟三階大会議室全室にて第22回VHJ透析部会小委員会が開催されました。

VHJとは医療の質の向上と経営基

盤安定のため研究活動を行う任意団体で、今回は全国の19病院から臨床工学技士22名、看護師5名、資材課5名、事務局5名、6メーカー19名の計56名が集結しました。

会議では透析装置主力4メーカーの最新機種が展示され、各メーカーのプレゼンテーションに対して熱いフリーディスカッションが行われました。続いて共同研究中のケア業務量研究の進捗状況が報告され、提案や今後の展望が意見交換されました。その後4班に分かれ、透析室→ICU→保守管理室→ヘリポートを見学し終了しました。

近森理事長の病院紹介では今後の地域医療についてのお話しもあり、参加された皆様には、明日の現場で役立つ何かを持って帰れたのではないかと考えています。

ふかた かずお



## ニューフェイス

①所属②出身地③最終出身校  
④自己アピールなど

Blank area for New Faces submissions.

### 人の動き 敬称略

Blank area for 'People's Movement' submissions.

Blank area for 'People's Movement' submissions.

## ソフトボール大会

9月22日開催、  
6チーム69  
名、優勝チー  
ム Downtown



Blank area for softball tournament report.

Blank area for softball tournament report.

## 運動会

10月13日開  
催、約180名  
優秀チーム  
青組（内科系）



Blank area for sports festival report.

### おめでとう

Blank area for congratulatory messages.

### 2018年9月の診療数 システム管理室

#### 近森会グループ

外来患者数	16,580人
新入院患者数	928人
退院患者数	903人

#### 近森病院（急性期）

平均在院日数	14.41日
地域医療支援病院紹介率	79.83%
地域医療支援病院逆紹介率	174.22%
救急車搬入件数	539件
うち入院件数	271件
手術件数	416件
うち手術室実施	279件
うち全身麻酔件数	156件

### 2018年9月 県外出張件数

件数 59件 延べ人数 81名

### 編集室通信

旅行に行っていない。以前は申込んだら連れて行ってくれる院内旅行で海外へも気軽に行けたのでありがたかった。自分で準備するのは億劫で、今は夢想するだけ。仏閣巡り、離島探検、富士山登頂、旅番組を見る度憧れる。いつかは紅葉や桜前線と一緒に北上する旅もしてみたいが…。♪夢見ることならめいっぱい♪です。

(ざきち)

# 奄美の海と緑と太陽と

## 龍郷町からバス 50 分

『西郷どん』の島妻愛加那の故郷奄美大島の龍郷町が結子さんの故郷である。高い木に登ったり海に潜ったり、山へ探検に行ったりが幼い頃のいちばんの思い出。思いっきり身体を動かし、澄んだ空気をいっぱい吸って成長したのだろう。羨ましいような自然に囲まれて大人になった野生児はいま、やはり昔のように空気をいっぱい吸い込んで思いっきり動き回っているようだ。

まず、管理栄養士への道。龍郷町から県立高校の普通科へは 50 分かけてバス通学。栄養を学ぶ大学に入るには必須のコースだった。大人になった今でも、感性が似ていると思える母親から、「食べることが大好きな娘が、『食』なら人の最期まで関われるから、食を仕事にしたい」と、勧められたからだ。

## また太陽が射し込んだように

共働きの親に代わって、常にそばにいてくれた隣りの家に住む母方の祖母の影響も大きかった。糖尿病の祖父のため、祖母はグアバ茶をいつも作っていたし、「原則、口に入れるものは何でも当然！手作り」で育ってきた。

福岡の大学卒業後は、地元の奄美大島で働くことを決めていた。「じいちゃんばあちゃんや島の周りの人たちに元気でいて欲しい。自分も病院で働いて、具体的な手伝いをしたいと思った」。

夢いっぱい、やる気いっぱいの帰郷。



▲「ポーズは不本意ですけど（笑）。夏に奄美大島に帰り、サップに乗ったとき

父親は「家にまた太陽が射し込んだようだ」と、地元就職を大喜びしてくれた。親の幸せが自分の幸せ。それが骨身にしみるような中で育ってきた。地元愛は誰かに教えられるものではない。まさにカラダから染み出すようなエネルギーがあるのだろう。

## 宮澤部長の講演で決意

亜急性期病院に就職し、月日は流れて……。教科書に載っている通り、例えばこの患者さんにはこのカロリーで水分はこれこれと、忠実に実行するのに、うまくいかない。理由さえも分からない。医師に絶食と指示されたら、「疑いもせず忠実に」実行。でも患者さんはよくなってくれない。

手探りを続けたがあまり成果を実感できないまま、焦りが出はじめた頃。鹿児島市内の勉強会で臨床栄養部の宮澤靖部長の講演を聴いた。離れがたい思いを少し残しつつも、奄美大島を離れることを決意。地元就職をあれほど喜んでくれていた両親には、「それで納得して仕事ができるなら」と、気持ちよく送り出してもらえた。

近森病院へ就職して、初めて聴診器を管理栄養士が使うことを経験した。島の当時、患者さんの病態が自分に飲み込めていなかったことも、近森会にきて納得できるようになった。

いま、親や親戚の人が、そろそろ帰郷をと待ちわびてくれているのは、夏や暮れに帰ったときに感じるようだが、「不甲斐なさを感じることも多い」。



▲西本陽央チームの皆さんと龍馬マラソンに出場！お揃いのTシャツも作りました！



▲腸の動きを聴く。聴診器を使う管理栄養士の姿がすっかり板についてきた！

まだまだ覚えることがいっぱい！」の心境なのだとか。

病棟のチームは、当然のように栄養士の話聞いてくれ、相談にもものってもらえる。「他の病院を経験した栄養士なら、なおさら近森会の環境の有難さが理解できるのではないか」とも思う。

## 朝活、マラソン、全力投球

仕事も一所懸命なら、オフも手は抜きたくない。「朝活」で、早朝から朝市や「モーニング」へ仲良しと繰り出している。マラソンでは西本陽央先生のチームに加わり、龍馬マラソンにも挑戦した。今年は、あまり練習できなかったから欠場したが、再開を誓っている。

何ごとにも心を砕き、全力投球する彼女は、常に明るく元気な印象を周りに与えているのだろう。しかし、「マイペースで、悩みがなさそうに見られますが、一応あります」と、ナイーブな一面も。さらに、「悩みあり」と強調したい辺り、天然っぽさも魅力では。

内山里美科長からは「何でも“おいしい！”と残さず食べるが決して食い意地がはってるわけではなく、作ってくれた人のことを思っているらしく、本人らしいと感じた」とも聞いた。

素材の旨さが飛び抜けている高知で、仕事のハードルもまだまだ高そうな暮らしが、当分は続きそうだ。目指す着地点はどうなるだろう。

※近森病院では一刻を争う患者さん、地域の先生方から紹介される患者さんが多数、入院・手術されています。そんな患者さんの退院後を「いかがお過ごしでしょうか？」と訪ねる企画です。

## 目指すは「一眼二足三胆四力」木下 海成さん



▲ 3カ月のリハビリ後回復。高知県高校体育大会剣道の部では男女とも前年に続き優勝！ 大将を務めた高知高校3年の木下海成さん  
◀ 高知高校剣道場での放課後の練習で

今年5月の県体で、高知高校剣道部が団体優勝した記事が新聞に大きく掲載されていた。「大将」を務めた木下海成さんは、中学2年生のとき、実は、近森病院整形外科でヒザの痛みを取る手術を受けていた。

左ヒザに耐え切れないほどの痛みが出たのが受診のきっかけだったが、最初に痛みを覚えたのは、ずっと前、小学2年のとき。小学1年から習い始めた剣道で、ほとんど毎日、竹刀を振っていたからだろうか。

きっと厳しい筈の練習が楽しくて楽しくて。大好きな剣道。「勝つ瞬間のあのシビレる感じ！ 想像してもらえるでしょうか」と、ニコリ海成さん。

小学4年からは、車で片道1時間半かけて、野市町の剣道場まで夜7時から9時、毎晩、稽古に通っていた。送り迎えの担当は、おばあちゃんだった。孫が稽古する間ずっと待つおばあちゃんの根気も立派。スゴイ！

ぐんぐん腕を上げ、強豪校の高知中学へ進んだ。実はお父さんも、剣道の国体レベル選手だったと、これは入学後、先輩たちの戦績を振り返ったとき、父の名を見つけ、初めて意識したこと

だったとか。

練習を休んだら置いていかれる。そんな思いもあり、徐々に出始めた痛みをこらえて、各種大会でも勝ちを重ねていた中学2年の冬。とうとう耐えられなくなってみちなか整形外科クリニックを受診、当院への紹介となった。

手術前日に入院。医師の指示のもと、理学療法チームを中心に、すぐにリハビリの具体的な目標が決まっていく。

筋力、握力その他、全身状態をくまなくチェック。6週間ほどは体重を患部にかけていないようにしながら、どう動かすか。術後3カ月で松葉杖卒業のためには、どのようなメニューを組むか。想定以上の痛みが出た場合はどうか。そ

れぞれに個別のメニューが用意されていく。

海成さんの場合、できるだけ早い学校生活への復帰が求められるし、可能な練習メニューはできるだけ早く再開もしたい。そのためには手術した左足をどう扱い、姿勢はどう、階段の上り方はどう。そういった細かい生活動作ひとつひとつを想定して、手術翌日から早速リハビリが始められた。

国体級の腕前の海成さんはさすがによく頑張った。当初のリハビリ目標にも忠実にあれから3年経過。ヒザの痛みはもう忘れた。剣道推薦で、大学進学先も決まっている。今後とも剣道漬けの毎日が続く。頑張ってる海成さん！

### ? どんな手術?

診察から一カ月後に手術。診断名はヒザの関節内に軟骨が剥がれ落ちる「離断性骨軟骨炎」。そのため、骨の融解を起こした部位が衝撃に耐えられるように、複数の小さな円柱状に採取した自分の正常な軟骨をモザイク状に移植する「骨軟骨柱移植手術」が行われた。

